



## 名古屋大学教授らが本格的映像教材「刑事訴訟（捜査編）」を制作 ～高校生も裁判員になる時代に、人が人を裁くことの意味を考える～

### 【本研究のポイント】

- ・名古屋大学大学院法学研究科教授が、法曹実務家、映像の専門家とともに本格的な刑事訴訟の映像教材を制作。
- ・この教材は、法改正により高校生が裁判員に選任される時代になることを受け、高校生や保護者、教育現場の先生方と一緒に刑事裁判について考えたいという思いから企画されたもの。
- ・映像教材の原作となるストーリー、解説、書式等をまとめた書籍「刑事訴訟教材」(仮)を公刊予定。映像と書籍を連携し、実践的かつより詳細に刑事手続の学習が可能。

### 【研究概要】

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院法学研究科「法実務技能教育教材研究開発プロジェクト」(PSIM コンソーシアム 代表：名古屋大学大学院法学研究科教授 藤本 亮)は、同大学大学院法学研究科 宮木 康博 教授を中心に、捜査から裁判に至る各刑事手続段階を実感できる映像教材の第一弾として「刑事訴訟（捜査編）」を制作し、2022年6月10日より一般公開しています。

※詳細は、添付チラシをご参照ください。

2009年5月21日からスタートした「裁判員制度」は、候補者の選任手続への出席率は年々低下の一途をたどり、2019年度には辞退を認められた裁判員候補者が66.7%に上っています。一部の国民しか刑事裁判に参加していない状況は、裁判員法が掲げる「司法に対する国民の理解の増進」や「信頼の向上」という目的の根幹が揺らいでいることを意味します。また、再犯防止や犯罪被害者支援施策にも暗い影を落

とすことになりかねません。

公職選挙法の改正に伴い 2022 年から新たに高校生も裁判員に選任される時代となりました（実際には 2023 年開始）。裁判員に選任されることも、選挙権を持つことも、社会生活を送る上で重要な機能への主体的関与である点において変わりありません。今回の法改正を機に、より良い社会という花を咲かせるべく、もう一度、大学から地域に根差す種をまき、コミュニティの皆さんと一緒に根を張ることに取り組んで行きたいと考えています。本VTRを多くの方にご視聴いただき、実際に運用されている刑事手続と向き合いながら「人が人を裁くということ」の意味、ひいては、刑事裁判をめぐる諸問題を考える契機となれば幸いです。

### 【詳細】

映像教材 「刑事訴訟（捜査編）」（予告編）  
（1分23秒）

<https://youtu.be/zBG9Scq0XvY>



映像教材 「刑事訴訟（捜査編）」（本編）  
（42分27秒）

<https://youtu.be/nvLWU42a0bw>



事件は、不倫関係にある中で発生した殺人事件です。事件内容の妥当性については慎重に議論を重ねましたが、最終的に、社会に実在する事象から目をそらさず、様々な事情を踏まえて一つの事件に裁判員として向き合ってほしいとの思いが共通認識となりました。陪審制度とは異なり、日本の裁判員制度の下では、裁判員は、裁判官と一緒に、事実認定と量刑判断を行います。事実認定は証拠によるべきであり、不倫関係にあるということでは予断や偏見を持って行うことは不適切である一方、量刑の判断に際しては、不倫関係にあったことが影響し得ます。どのような事実認定を行い、裁判員がいかなる判決を言い渡すのか。この教材を素材に、ご家族、友人、教育現場の先生方等と一緒に考えてみてください。

### 【今後の展望】

第二弾として、本映像教材の後編「刑事訴訟（公判編）」を 2023 年春に公開を予定しています。同時期に、映像教材の原作となるストーリー、解説、書式等をまとめた書籍「刑事訴訟教材」（仮）を公刊する予定です。本書を通じて、実践的かつより詳細に刑事手続を学習していただければと思います。これら映像教材や書籍を活用して、シンポジウムや解説講義、公開講座等の実施を計画し、広く地域社会の皆さまと刑事裁判をめぐる諸問題を一緒に考える機会を提供していきたいと考えています。また、SDGs への対応として日本語字幕版を制作するほか、英語字幕版の制作も予定しています。

甲野地方検察庁



小野正 検事正



浪花太郎 次席検事



大野昭明 検事



豊島英子 事務官

甲野中央警察署



浅川吾郎 警部



棚橋純一 警部補



藤井勝久 警部補



伊藤拓弥 巡査部長



留置係官

# 刑事訴訟

— 捜査編 —

人物相関図



語り  
榎木孝明

捜査機関

上原小夜子



被疑者



不倫関係

被害者 深山翔平(会社の上司)

親友

第一発見者



坂崎みどり

弁護

弁護人



竹永公平 弁護士



鈴木正子 弁護士

# 有罪 × 無罪

## — 高校生も裁判員になる時代に —

2009年5月21日からスタートした裁判員制度は、公職選挙法の改正に伴い、2022年からは高校生も裁判員に選任される時代になりました（2022年分は既に通知が発送されているため、実際には2023年から）。これを機に、日本社会の未来を担う高校生や保護者の皆さん、教育現場の先生方と一緒に刑事裁判についてもう一度考えてみたい、そんな想いから社会貢献プロジェクトとして企画されたのが「映像教材 刑事訴訟」です。

事件は、不倫関係にある中で発生した殺人事件です。事件内容の妥当性については、慎重に議論を重ねましたが、最終的に、社会に実在する事象から目をそらさず、様々な事情を踏まえて1つの事件に裁判員として向き合ってもらいたいとの思いが共通認識となりました。陪審制度とは異なり、日本の裁判員制度の下では、皆さん裁判員は、裁判官と一緒に、事実認定と量刑判断を行います。事実認定は証拠によるべきであり、不倫関係にあるということだけで予断や偏見を持って行うことは不適切である一方、量刑の判断に際しては、不倫関係にあったことが影響し得ます。皆さんなら、どのような判決を言い渡しますか。この教材を素材に、友人、保護者の方々、教育現場の先生方と一緒に考えてみてください。

### スタッフリスト

執筆・監修	四宮 啓 (弁護士・國學院大學教授) 城 祐一郎 (元検察官・昭和大学教授)		
執筆	宮木 康博 (名古屋大学教授) 山崎 拓哉 (弁護士) 栗山 晋 (弁護士) 大久保 智晶 (弁護士) 山下 祐司 (弁護士) 池亀 尚之 (千葉大学准教授)		
製作協力	藤本 亮 (名古屋大学) 大橋 禎子 (名古屋大学)		
脚本	児島 秀樹		
語り	榎木 孝明		
キャスト	白須 慶子 西条 美咲 山内 としお 福津 健創 清水 拓蔵 奥田 武士 江浦 雄大 小谷 友里恵 藤田 マコト 河本 祐貴 久米田 彩 寺門 一憲 寺町 徹	撮影監督 館岡 悟 音響 藤田 秀成 製作プロデューサー 澤田 卓 ヘア・メイク 三上 早苗 制作協力 高樹 一生 編集・ディレクター 鈴木 洋平	
製作	PSIMコンソーシアム 令和3年度地域貢献特別支援事業 (名古屋大学)		

## 1 QRコードから動画を観る

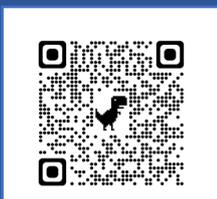
映像教材 刑事訴訟 (予告編)

<1分23秒>



映像教材 刑事訴訟 (捜査編)

<42分27秒>



この映像教材はどなたでも視聴可能です

## 2 アンケートに回答



ご協力ありがとうございました。



### PSIM コンソーシアム (法実務技能教育教材研究開発コンソーシアム)

名古屋大学大学院法学研究科を主幹校とした法実務技能教材にかかる研究開発コンソーシアムです。現在、国内外の多数の法科大学院および法曹養成に関わる組織や団体等が参

加しています。PSIM コンソーシアム参加校は、模擬裁判や模擬相談などの教育教材やその活用方法を研究・開発・共有し、「実践による学び (Learning by Doing)」を通じて主体的に法を身につけていく教育機会を提供しています。

詳しくは公式サイトへ

